

シルクロードの旅

行けども行けども果てしない、タクラマカン砂漠(ウイグル語で「一度入れば二度と出られない」という意味のこと)その中に突然姿を現すオアシスの大都会。そこにまた、びっくりする程沢山の人間がひしめいている——これが受けた印象のすべてでした。

高知—名古屋—西安—敦煌—トルファン—コルライ—ウルムチ(新疆ウイグル自治区の首都)と巡り、5/9(21日)(参加者21名・男10女11)13日間の旅でした。

最近油田、天然ガスが発見されて、広大な砂漠を三年がかりで、縦断する自動車路が敷かれ、コルラがその基地でした。

なにしろ雨の降らない(年間の雨量わずかに20ミリ・高知の半日)地域で、山はすべてハゲ山。

ただ北方に五千米級の天山山脈が、万年雪におおわれて聳えています。その雪解水を導いて五百キロ、数百年も地下道を掘っている(カレーズという)のを見学したり、天山山脈にわけ入り、雪に降られて包(パオ)に泊まったりしました。

気の遠くなるような、広い広い中国大陸のほんの一つ二つの「点」を見てきたのに過ぎませんが、やはり行ってきてよかった旅でした。

そして、たとえ台風におおとも、四国の山々はい

つも青々と茂り、四季折々の景色に恵まれたこの国を、一層いとおしく思う旅でした。(H)



沈み行く長江三峡を渡る 続

西田令子

西陵峡の三峡ダムの建設現場は川幅の大半が巨大なコンクリートの擁壁で塞がれていて完成間近が実感される。水没する兵書宝剑峡や牛肝馬肺峡などの絶景を通過すると、川幅が少し広がるのどかな山村の風景が両岸に見えだが、諸々に来春と、最終時の水位の両方を表示した看板があり、この表示以下の家は取り壊しが始まっていて、上方には新しい家がキラキラと輝きながら建てられている。ガイドの説明ではこの辺り蜀の時代から陸上の通運はできず、物資輸送はもっぱら船に頼るという。至る所に船着場があり、天秤棒に荷物をぶら下げて坂道を登る農夫の姿が見受けられる。段々畑が山頂近くまで丹念に耕されているが、どう見ても好条件の畑が水没して、より厳しい条件が農民に被さって来る気がする。この

後「断崖の美しさは三峡」と称される巫峡を通過するが、緩やかに蛇行する川を船が転針するたびに絶景が入替り素晴らしい。だがここでは北岸の断崖に彫られた孔明碑が水没するし、この絶景もほとんど消えてしまいうらう。巫峡の最上流側に、支流の小三峡を小船で観光する拠点の巫山港があり、国内外から多数の観光客が来てこつた返しているが、この港町も今年一杯で跡形もなくなると言う。絶景が消えるのと同時に観光収入もなくなるのでは?と他人事ながら心配する。その後壟塘峡を渡り、狭くて峻険な絶壁に四角に穿った「古棧道」の始点に在る白帝城へ900段の石段を登る、全山紫の桐の花が美しい。この花も石段も全て没しダム湖に浮かぶ孤城となる。本堂には「劉備が死に臨み子と国事を孔明に託した」極彩色の彫像がある。白帝城は別名「詩城」と呼ばれ、李白や杜甫も訪れている。李白は(朝に白帝を辞し・千里の江陵一日に還る)と白帝城から江陵(荊州)まで一日で軽舟を疾らせているが、私たちはこれを二日と少しかけて回り舞台を観るようにゆったりとさかのぼった。この素晴らしい景観が消えるのも寂しいけれど、この流域に住む貧しい(思い込みではないと思

〈再録〉 慶弔内規

- (1)死亡見舞 10,000円
- (2)米寿の祝 10,000円
- (3)入院見舞 3,000円 (入院期間が1ヵ月以上にわたる場合、本人または家族よりの申請に基づいて適用)
- (4)その他、事務局会議が必要と認められた場合 相当額
- (5)運用の細目については、その都度事務局会議で検討の上執行する
- (6)適用は1992年4月1日以降とする

う)人々の懸命に生きる姿に、どうか幸せな未来を・・・と心底思った。長江の流れはいっまでもココア色であった。



退職者

テニス交流大会について

高退協主催で、右の会をやりたいと思っています。初回は、県立学校と私学の退職者にかぎってやってみたいと思っています。内容は、ダブルスだけ、予選リーグと、決勝トーナメントおよびコンソレーション(敗者の親睦ゲーム)、男女不問、窪田の目算では十ペアーは参加ありそうと思うのですがどうでしょうか。秋に詳しい要綱を作成してお届けします!!

2002年度 夏季学習講座

日時	8月28日(水)	14:00~17:00
14:00	開会挨拶	
14:10	「四万十楽舎よもやま話」	山下正寿氏
15:20	小休止	
15:30	「イモと雑穀の民俗誌」	津野幸右氏
16:40	閉会	
17:00	休憩・入浴等	
18:00	懇親会・夕食	
場所	四万十楽舎 幡多郡西土佐村中半	
	TEL 088 (054) 1230	

夏季学習会・宿泊・懇親会等について

宿泊費: 6,000円(1泊2食付)
懇親会費: 4,000円(バーベキューパーティ)

翌日、希望があれば次のコースを用意します。

① 川舟遊び、=要予約(約1時間・料金1,000円程度)
地元川漁師さんの案内で、漁を見ながら川遊びを楽しみます。

② 黒尊ブナ林散策(半日、無料)

交通機関

高知	窪川	江川崎	四万十楽舎
8:19	9:25		
	10:03	10:57 (送迎バス 10人まで)	
高知	中村	口屋内	四万十楽舎
10:11	11:53		
	13:05	13:40 (村営バスに乗り換え(連絡あり))	

☆ 参加者が確定すれば、高知近辺の方は車を取り合わせていくことも考えています。

お願い(重要)

宿泊、懇親会の参加者、翌日の清遊(①または②)の希望者は、下記へ7月30日までに必ずご連絡ください。

古味忠男	088 (873) 7123
和田 明	088 (843) 2713
坂本敬子	088 (844) 2018
上岡 積	088 (860) 0978



高教組だより(定期大会報告)

高教組執行委員長 橋元 陽一
 六月八日(土)午前十時から午後六時まで、高知城ホールで開催しました。今回初めて従来の二日日程を一日にして、代議員の発言保障という点からは課題を残しましたが、代議員の交代がなくて集中した議案審議を行うことが出来ました。

議事に入る前に、市商分会から、昨年と今年で加入した仲間六名が会場正面に並び、自己紹介を行い、「仲間が増えることが如何に仲間を励ますか」を実感しました。討議は、二〇〇一年度総括(情勢)―二〇〇二年度方針と構成された議案を深める観点で、職場の実態、平和・教育を巡る情勢、これからの民主的學校づくりの三本の柱を立てて、三六名の代議員が討論に立ちました。

学校週五日制完全実施に伴う学校現場の実態報告では、進学校といわれる分会からは、早朝補習、四五分七時間授業、土曜日の補習やテストなどの問題点が出されました。中高一貫教育がスタートした分会からは、中高の學校制度も運営上の違いや管理職の現場教職員を軽視した學校運営などにより職場が混乱している状況が報告されました。また全体的には、持ち時間数が変わらず、校務が五日に凝縮され、土日の部活動も変わらず、超過密労働になった。

俳句



6月15日(出) 手結岬・真行寺

台田 青幹

夏帽をあみだに被り友来る
 裸子の駆ける足跡波が消す

吉本 伸秋

枇杷熟るる鄙びし路地や野中井へ
 眺ね橋のはねたる空につばめ飛ぶ

中内 英明

梅雨茸の不気味に朱き桐木かな
 刺網の蝸蚌ばかりのかかりありし

中内みち代

野面積残る古港夏の潮
 国体の間近ヨットの海風け

小笠原さちを

露舟戻る吃水すれすれに
 青葉潮二人で潜る珊瑚礁

ている状況が明らかになりました。

臨教問題では、教育現場での経験が教員採用試験で軽視される状況の下、受審年齢制限に關わる講師組合員から、その不当性と制度改善運動の要求が提案され、高教組として全面的に取り組む方針を確認しました。

最後に、「戦争をする国」づくりをすすめるようとする動きの中で、憲法・教育基本法の理念と原則に基づいた教育実践を現場で具体化していく大会宣言を決議しました。

また現在の「勤務評定」に変わり、東京で導入された「新勤評制度」が、「指導力不足教員」問題について県内にも導入の動きがでています。この問題は次回報告します。

六月十五日には、幡多で津野幸右先生が平尾学術奨励賞を受賞された記念祝賀会があり、参加させていただきました。会場は、「イモと雑穀の民俗」文化にふさわしい様々な層からの参加者が肩を寄せ合い、また平均年齢が六二・一歳で、市川幸輝先生主催者代表が「会場のこの景色は、四万十の風景に負けるが、中身はそれには負けていない」(爆笑と挨拶で豪語されたほど、多彩な賑わいでした。終始あたたかい人情と笑いに包まれて、おいしいお酒が飲み交わされ、幡多のなまのみなさんの深く広い人間的なつながりに酔いしれました。

川柳

小澤 幸泉

旅考・糖尿・新世 ①

厳寒の地に教会が受け継がれ
 外国にあこがれ寄せて五十年
 寂しさも潤れて独りの米を研ぐ
 見ぬ父と絆を結ぶ糖尿病
 窓際も出世も共に老いてゆく



秦東寺残日録

坪井 幹之

「絲綢之路」点描

「山の会」は5月9日、中国「シルクロードの旅」に出掛けた。長大極まりないコースの中で、われわれが訪れたのはいくつかのいわば点に過ぎない。四国通路で言えば二、三の札所をいくつか見て廻ったようなもの。その中で、ささやかな印象を羅列してみる。西安、ウルムチなどの大都市での第一印象は想像を超えた経済発展の姿である。高層建築、道路など都市インフラの急速な整備、「巨龍」昇天のごとき勢いを感じた。泊まったホテルの設備も五つ星並みである。市民生活も活気に満ちていた。

砂漠で象徴される西域の発展も今や「西部開発」の真っ只中にあるようにみえた。鉄道、高速道路、パイプラインは地下資源を求めて西へ西へと伸びている。しかし、例にもれず環境問題を始め多くの

相撲三知識 四十九

林 勳

外国人力士(2)
 力士総数約七百三十人、その内、外国人力士は十カ国、四十三人である。国別ではモンゴルが断然多くて二十八人、ブラジルと韓国が三人、アメリカ、トンガが二人、アルゼンチン、中国、ロシア、グルジア、チエコが各一人である。

階級別では、横綱一人(米国)、関脇一人(モンゴル)、前頭二人(モンゴル)、幕下九人、三段目、序二段、序ノ口で三十人、であった(以上、今年五月場所現在)が、右のうち、幕下二人(モンゴルと韓国)が七月場所には十両に昇進した。韓国からは初の関取誕生である。(関取とは十両以上の総称)現在の幕内力士定員は四十人であるので、その一割が外国人力士である。

幕下以下の力士については全く知らないが、モンゴル、韓国などは日常生活そのもので足、腰が鍛えられている上に、モンゴル相撲、韓国相撲など格闘技が盛んである。また、七月場所には、レスリングとアマ相撲

の矛盾に直面しているようだが、觀光客には高度成長の現象面しかわからない。

くだけた話に入る。まずはビールである。とにかく喉が乾いてくつろぎたい。乾燥地帯の上には湿度が低いのでいくら飲んでも飽きがこない。朝はともかく毎昼・夜、現地の名物料理とともに大量に賞味した。値段も安い。大瓶に近いもので5元(75円)というところもあった。

自然と遺跡であるが、「百聞は一見に如かず」である。砂漠一つとっても千差万別、説明はつかない。オアシス地帯のポプラ原生林もわれわれの常識を超えている。西域の自然は宏大な雄渾である。日本人観光客初の快挙としてタクラマカン砂漠のウォーキングに挑戦したが、目的地までの往復に8時間を要した。

敦煌の莫高窟、交河故城、天池と聖山ボゴダ、兵馬俑、世界的な名所旧跡も巡った。自作の漢詩で紹介したいところだが残念、紙片が尽きた。

の経験者で一九三三、一三〇年のロシア人力士も大鵬部屋へ入門することになった。

これらの力士は体格体質的に恵まれていると思われ、ハングリ―精神(単に経済的問題のみでなく、日本の国技大相撲に挑んできた闘志の面からも)と相俟って、こ数年後には、十両、前頭あたりでは相当面白い、異色力士が現われるかもしれない。

外国人力士によって面白い相撲が見られることは結構ではあるが、現在のように、強さと人気ナンバーワン(武蔵丸と朝青龍)が外国人力士であることは寂しい。「日本人力士頑張れ」と言うよりは、ふんどしを締め直してもらわなければ困る、という感じである。

